

祖母にかかった一本の電話

島根県松江市立第一中学校 2年 井上 洋一



七月のある日、一本の電話が離れて暮らす祖母の携帯電話にかかった。祖母が応答すると、「あなたの携帯電話は、利用料金が支払われていないため、あと二時間で使用できなくなります。」という音声が流れ、それだけを言い残して切れた。

たまたま最近携帯を新しい機種に替えたばかりだった祖母は、手続きがうまくいっていなかったせいで使用が制限されるのではないかと心配になり、かかってきた番号に問い合わせるべきではないかと、私と母に相談してきた。私と母はその電話番号に不審を抱き、「外国の番号かもしれないし、安易にかけ直すべきではない。出来るなら携帯ショップに直接行き、本当にそのような電話がかかってくることがあるか、実際の契約状態を調べるべきだ。」と祖母に伝えた。祖母は、急いで近くの携帯ショップに相談に行った。すると、「その番号は当社には関係のない番号です。無視してください。」とのことだった。

よくニュースで耳にするような、金銭を要求して振り込み先を伝えてきたり、誰かがお金を受け取りに来るような電話ではなかったが、不安になった祖母が誰にも相談せず、すぐ不審な電話番号にかけ直していたらどうなっていただろう。一体、どこに繋がっていただろう。

この事件が我が家で話題になってから、祖父も「実は警察署から、知らない電話番号や非通知着信には応答しないように、と指導があった。」と明らかにした。しかし、いろいろな物品を通販で注文することが多くなった祖父は、複数の配達ドライバーから電話がかかってくることも多く、知らないからといって無視できるとは限らないと言う。また、最近は警察官や警察署を装って、接触してくることも多いと母が言っていた。電話番号も、警察署からかかっているかのように海外の拠点から偽装できる技術もあるそうだ。「一体、何を信じたらいいのか分からないわ！」と祖母がお手上げといった表情で言った。

まず、相手を不安にさせ、時間に制限を設けることで、じっくり考える余裕をなくし、正しい判断ができなくなったところに入り込むというのは、どの犯罪にも共通する手口なのだそうだ。

私の祖母は、たまたま家族がすぐそばにおり、すぐ誰かに相談できたから、このような犯罪に巻き込まれなくて済んだ。しかし、一人暮らしだったらどうであったろう。

一人暮らしの高齢者が、詐欺の被害に遭わないようするために注意できることは何か調べてみた。具体的には、周囲の人間が日常の関わりを持ち、安心

できる環境を整えることが大切だそうだ。出来れば定期的に電話や訪問をして声をかけ、生活の様子を確認することが基本だとしている。孤独感が強いと、詐欺の電話に耳を傾けてしまいやすくなるため、日頃から「怪しい電話や手紙があったらすぐ相談してね」と伝え、気軽に話せる関係を築いておくことが重要だそうだ。

私のすぐ近くにも一人暮らしのおばあさんがいる。家族は遠くに住んでいると言っていた。いつも挨拶したり、天気の話をしたりする。お年寄りを守るのは、こうした日常の付き合いからなのかもしれないと思う。

これからも出会ったら挨拶をして、何かいつもと変わった感じがしないかどうか気にかけるようにしたいと思う。もし何か変わった点を見つけたら、私も誰かに相談して、みんなで犯罪を防ぎたいと思う。